



2025.5.27

チームラボ、京都に、没入型の常設アートミュージアム「チームラボ バイオヴォルテックス 京都」を、2025年秋オープン。新たな作品も多数公開予定



ティザー動画「[チームラボ バイオヴォルテックス 京都](#)」京都 © チームラボ

チームラボは、京都市が進める京都駅東南部エリアプロジェクトの一環として、京都市南区に没入型の常設アートミュージアム「[チームラボ バイオヴォルテックス 京都](#)」を、2025年秋にオープン予定です。

本ミュージアムは、これまでの常識的な物質の概念を超えた作品群に、身体ごと没入する体験を創り出します。

作品群（一部抜粋）

「[チームラボ バイオヴォルテックス 京都](#)」では、新たな作品や日本未公開作品も多数加わります。以下の一部の作品に加え、今後もさらに多くの新しい作品群が発表されます。

Massless Amorphous Sculpture



チームラボ 《Massless Amorphous Sculpture》 © チームラボ ※参考画像

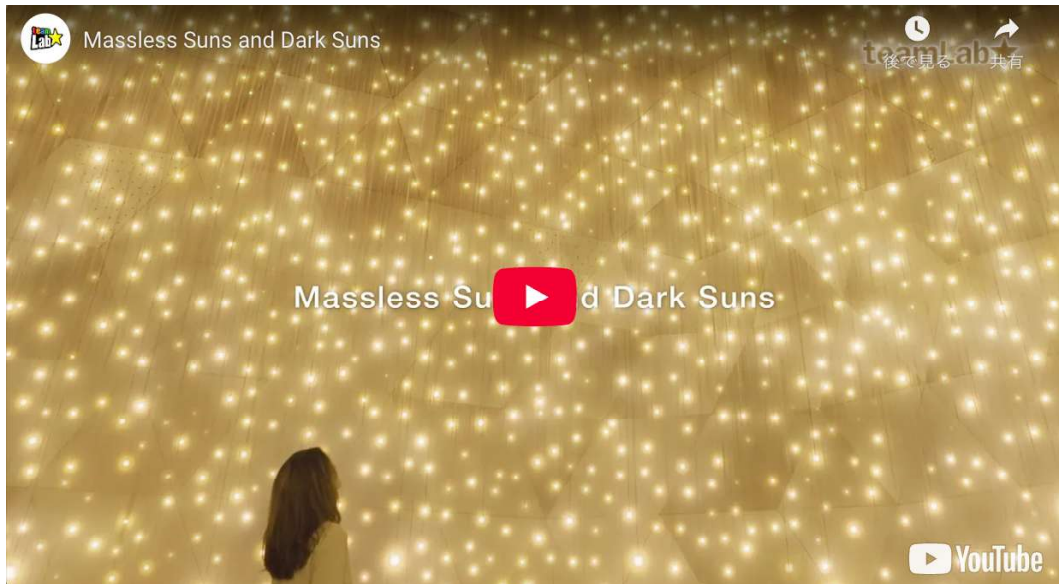
この浮遊する巨大な彫刻は、泡の海から生まれ、質量の概念を超越し、地面に沈むこともなく、天井まで上がりきることもなく、空間の中ほどを漂う。この浮遊する彫刻の存在の輪郭は曖昧で、千切れて小さくなったり、くっついて大きくなったりする。人がこの彫刻に身体ごと入り込んでも存在は維持され、人々によって壊されても、自ら修復する。しかし、塊は、自ら修復できる範囲を超えて破壊された時、修復が追いつかず崩れていく。そして、人々が押したり、横にのけようとしても、この彫刻を動かすことができないし、人々が風をあおげば、彫刻は散り散りになってしまう。人間の物理的な行為では、この彫刻を動かすことすらできない。

石ころや、これまで人間がつくってきたものは、物体であり、物体はそれ自体で安定的な構造をもつ。石ころは、外界から遮断され密封された箱に入れても存在し続ける。一方、海に生まれる渦は、閉じた箱に移すと一瞬で消えてしまう。つまり、渦は、それ自体で安定した自らの構造を保っていない。渦は、環境が生む流れの中にある存在であり、渦の外部から内部へ、そして内部から外部へと流れ続ける水によってつくられ、その流れが生んだ秩序を持つ構造によって渦は維持され続け、流れと共に変化する。そして、その存在の輪郭は曖昧で、渦と渦の外側の物質的な違いはない。

物体ではなく、特別な環境を創ることで、その環境が生んだエネルギーの秩序によって存在を創る。そのエネルギーの秩序による存在を”High Order Sculpture”と呼ぼう。それは、環境とは切り離せず、環境変化とともに変化する。これまでの物体による存在の常識を超越し、中空に存在を維持し、存在の輪郭が曖昧で、人がその存在の中に身体ごと入り込んでも存在が維持され、壊れても自らの存在を修復する。

この空間には、物質は、ごく普通の石鹸と水と空気しか存在していない。泡は石鹸の泡である。空間を石鹸の泡で埋め尽くし、特異な環境を創り、空間にエネルギーの秩序を生み出す。そうすると、泡の海から巨大な塊が生まれ、浮き上がり、中空に定常する。

質量のない太陽と闇の太陽



チームラボ《[質量のない太陽と闇の太陽](#)》© チームラボ ※参考動画

私たちは、見ている世界を認識しているのではない。私たちは、認識している世界を見ている。

無数の光の球体群。人々が光の球体に触れようとする、強く輝き、周辺の球体も次々と呼応し連続していく。視野を広げてじっと見ていると、闇が凝固したかのような闇の塊の球体群も現れはじめる。

しかし、これらの光と闇の球体群は存在しない。闇の球体群は、カメラにすら写らない。

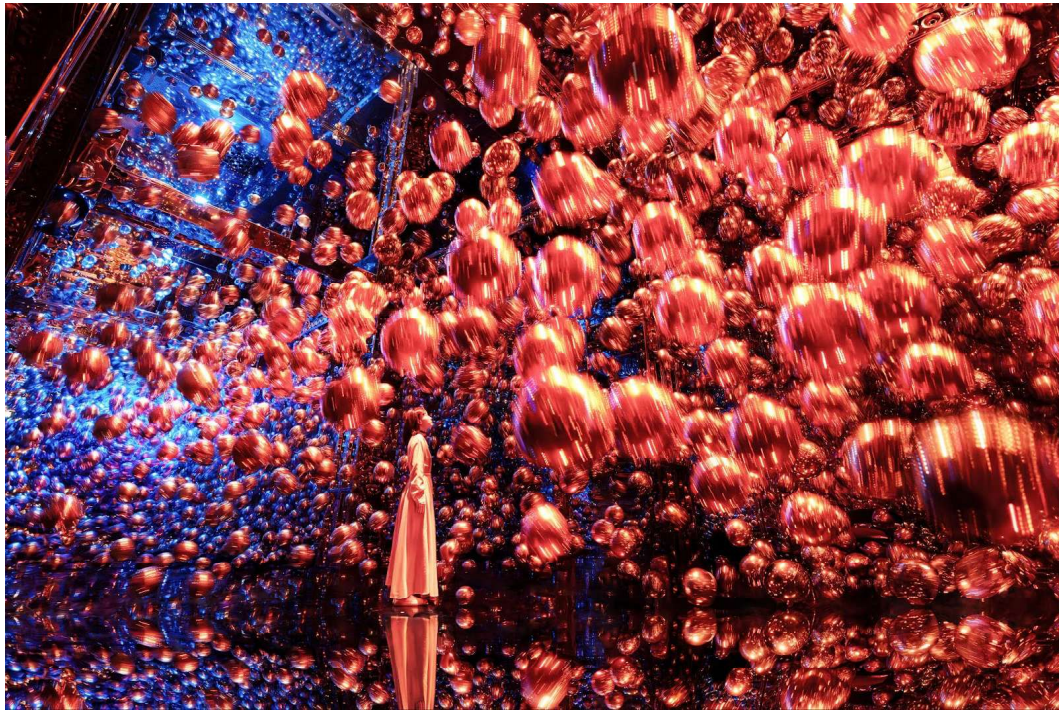
光の球体表面にガラスなどの物体は何もなく、この球体は光だけでできている。物質的な境界面はなく、球体と身体との境界の認識は曖昧である。しかし、この宇宙では、光は凝固せず、光だけで球体状の塊になることはない。つまり、この光の球体は存在しない。

この球体は、物理世界には存在せず、認識世界に存在する彫刻「[Cognitive Sculpture / 認識上の彫刻](#)」。マテリアルは、光と環境、そして身体と認識。体験者自らの動的な身体と認識によって形作られ、体験者自身の認識世界に出現し、存在する彫刻。認識上存在する時、それは存在である。

そして、球体はそれ自体では認識世界にすら存在できず、環境が生み出している。環境がつくる現象が、作品の存在である。

存在とは何かを問う。

Morphing Continuum



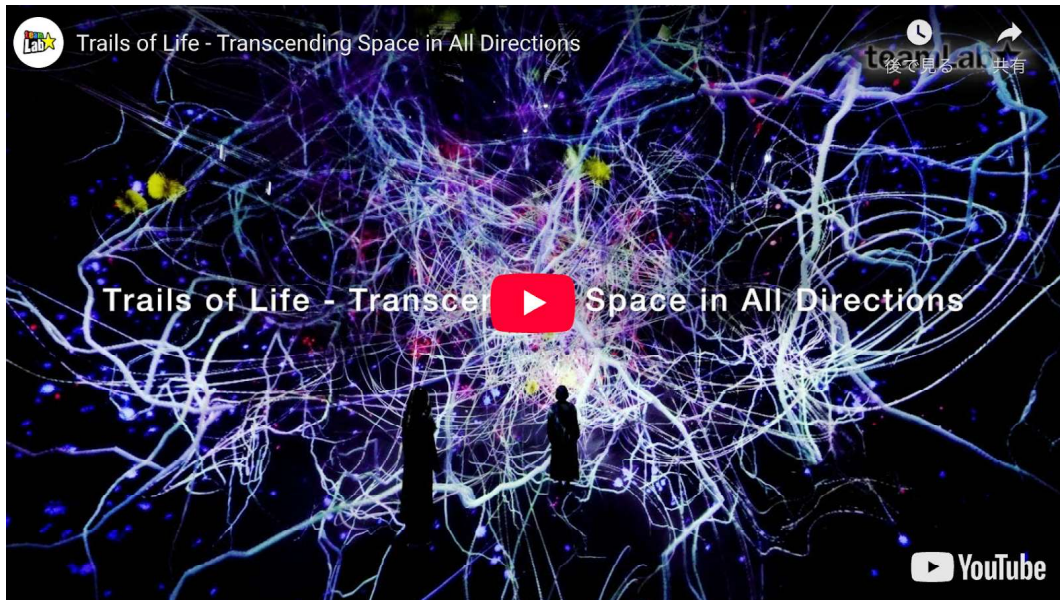
チームラボ 《[Morphing Continuum](#)》 © チームラボ ※参考画像

ひとつひとつの構成要素は時間的空間的に離れていても、それらに秩序構造が生まれると、構成要素が時空間を超越し、ひとつの存在が現れる。そして、表層的に形状や大きさが大きく変化したり、全ての構成要素の入れ替えがあっても、ひとつの存在は維持される。この時空間的存在は、全体の一部であり、全体から生まれ、全体に還元されていく。時空間的存在群による生命的宇宙。

空間に、存在が生まれる。存在は、塊となって地面に生まれ、地面から立ち上がる。また、存在は、空中に生まれ、質量の概念を超越し、空中に固定的に存在し続ける。これら存在の輪郭は曖昧で、存在を構成している輝く球は入れ替わっていく。人がこの存在に身体ごと入り込んでも存在は維持され、人々によって壊されても自ら修復する。そして、人々が押したり、横にのけようとしても、存在を動かすことができない。人間の物理的な行為では、この存在を動かすことすらできない。

物体ではなく、特別な環境を創ることで、その環境が生んだエネルギーの秩序によって存在を創る。それらを“High Order Sculpture”と呼ぼう。それは、環境とは切り離せず、環境変化とともに変化する。これまでの物体による存在の常識を超越し、中空に存在を維持し、存在の輪郭が曖昧で、人がその存在の中に身体ごと入り込んでも存在が維持され、壊れても自らの存在を修復する。

Traces of Life



チームラボ《[Traces of Life](#)》© チームラボ ※参考動画

作品空間は人々と一体となって動き、人々の足下には痕跡が残り続ける。痕跡は一本の長い軌跡となり、作品世界に残り、大きな存在になっていく。

この作品空間は、人々がいなければ空間だけが存在し、何もなく、何も描かれない。この作品世界は、人々の存在によって描かれはじめる。

本事業は、京都・大阪を基盤とする複数の企業と共に、京都駅東南部エリアにおける市有地に、「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」となる施設の設置・運営を行う事業です。チームラボのアートミュージアム、アートセンターなどの複合文化施設の整備を計画しています。

チームラボは、本事業を通して、京都市が京都駅東南部エリアにおいて目指す、文化芸術や若者を基軸としたまちづくりの推進に貢献します。チームラボを代表として、京都・大阪に根差した複数のパートナー企業と共同で本プロジェクトを遂行します。

チームラボ バイオヴォルテックス 京都

京都市南区

<https://www.teamlab.art/jp/e/kyoto/>

#teamLabKyoto #チームラボ京都

2025年秋オープン予定

ハイライト動画

<https://youtu.be/5BV/KHgrzqul?si=zk4BFsDRd1LxptpP>

プレスキット

https://www.dropbox.com/scl/fo/93lvrprtgnfgv7fetmdkh/AEWRAiT_cvPAO96U6t39MTo?rlkey=lthlq82v8w9ar71j3vyh3j6oq&st=b447so0p&dl=0

お問い合わせ

チームラボ

<https://www.teamlab.art/jp/contact/>